

1 提案者 小林 利章 (安曇野市立堀金小学校)

2 提案内容

(1) 単元名 『^{じっかせぎ}拾ヶ堰』のひみつを探ろう【4 学年】

(2) 利用した番組名 「よろしく！ファンファン（地域の発展につくす～用水路開発～）」

(3) 授業のねらい (全 1 2 時間中の第 1 時)

地域の用水路「拾ヶ堰」について学ぶ前に、この番組を視聴することにより、あれた土地を米どころへ変えた用水路の役割や用水路開発には人々の強い願いや困難に負けない工夫や努力があったことに気づくとともに、地域の用水路「拾ヶ堰」を学ぶ視点をもつことができる。

(4) 授業の実践記録

段階	学習活動	児童・生徒のようす	指導・助言	備考
導入 5 分	1, 「拾ヶ堰」を学ぶ前に、似たような用水路について学ぶことを知る。	・今日は、福島県郡山市の用水路「安積疎水」の勉強をするんだな。 ・ビデオを見て勉強だ。楽しみな。	・「拾ヶ堰」について学ぶ前に、似たような用水路「安積疎水」を紹介しているビデオをみて勉強してみよう。	・事前に一人一台タブレットを用意する。
○「安積疎水」を作るために、どのような人が、どのような思いをもって取り組み、どのような工事がおこなわれたのだろうか。				
視聴 20 分	2, 学習カードにメモをしながら、視聴する。	・どんな用水路か、かかわっていた人はどんな人か、どのように作られたのかについて調べるんだ。 ・「よろしく！ファンファン」がでたよ。 ・分からない時には、もどして、見られるね。	・視聴のポイントを学習カードで確認しておく。 ・「よろしくファンファン」を検索させる。 ・分からない時には、戻して見直してみよう。 ・全部メモするのではなく、大切なところをメモしよう。	・学習カード(1)(2) ・タブレットで検索して、視聴する。
展開 10 分	3, どのような人が、どのような思いで関わっていたかを発表	・3 年間で 85 万人の人々が働いた。 ・きっかけになった人は、中條政恒という人だ。	・分かったことを発表しましょう。 ・「中條政恒」は、必ず取り上げたい。	・静止画「中條政恒」

まとめ 10分	する。 4, どのように安積疎水は作られたのかを発表する。 5, ①「安積疎水」を作った中條政恒など人々の取り組みを見ての感想と②「拾ヶ堰」の学習でどんなことを調べたいか書く。	・沼地や山、森などがあって、用水路を通すのは大変だった。 ・掘ったり、運んだり、人がやった。今のように機械がないから、とても大変だった。 ①人々が、協力して「安積疎水」を作ったから、米どころになった。 ①中條政恒がきっかけになってできたなんて驚き。 ①あきらめなくてすごい。 ②「拾ヶ堰」は、どこから来て、どこに流れて行くのか、作るのに何年かかったか、だれが作ったか、いつできたのか等。	・田子沼、トンネル、谷を越えるための橋など、具体的な内容になるように、問い返す。 ・「拾ヶ堰」ではどうか等、「拾ヶ堰」の学習につなげる言葉がけをする。 ・「中條政恒」や人々の取り組みを見た感想と「拾ヶ堰」の学習でどんなことを調べたいか書いてみよう。 ・児童の感じた驚きや尊敬の気持ち、感心したことなどを大事にして、まとめる。 ・「拾ヶ堰」はどうか、期待を持たせるようにする。	・静止画「田子沼の工事」、「トンネルの工事」、「水をながすための橋」など。 ・学習カード(3)
--------------------	---	---	--	---

(5) 考察

- ・「よろしく！ファンファン」を視聴する位置づけは、『拾ヶ堰』を学ぶ前に、似たような用水路について学ぶ」ということだった。やや唐突であったが、子どもたちは、日頃から MHK の動画を見ており、見るのが好きなので、ほぼ違和感なく受け入れることができた。
- ・「問い」を解決するために、番組をよく見て要点をメモしていた姿が見られた。また、個別に貸与されているタブレットを用いて視聴することで、自分の分からない場面をくり返し再生して視聴している姿が見られた。(主体的、対話的な資料との関わり)
- ・まとめの段階での子どもたちの学習カード(ワークシート)に書かれた内容から、「拾ヶ堰」の学習をするときの視点がかなり備わったと思われる。また、発表の場も設けたので、視点がかなり共有されたと思われる。

(6) 番組への要望

- ・学習カード(ワークシート)は、授業のねらいによって、「問い」を直すことが多々あるので、文書作成ソフト形式で載せて手直しができるようにしてほしい。

